**事業報告書**

**令和4年4月～令和5年3月**

**社会福祉法人　幸雪会**

**目　次**

**Ⅰ.　理念**

1.　基本理念

　2.　事業理念

　3.　沿革

　4.　事業サービス概要

**Ⅱ.　令和4年度事業活動報告**

1.　社会福祉法人幸雪会　法人事業報告

　2.　法人本部より報告

　　　・感染症対策

　　　・人材育成と新卒者採用

　　　・経費節減

　　　・年間行事企画

　3.　特別養護老人ホーム遊陶里事業報告

　　　・運営状況・利用状況

　4.　看多機遊陶里事業報告

　　　・運営状況・利用状況

　5.　ショートステイ遊陶里

　　　・運営状況・利用状況

　6.　デイサービス咲陶里

　　　・運営状況・利用状況

　7.　ヘルパーステーション遊陶里

　　　・運営状況

　8.　癒処陶里夢

　　　・運営状況・利用状況

　9.　その他事業所報告

　　　Ⅰ.訪問看護ステーション遊陶里

　　　Ⅱ.ケアプランセンター遊陶里

　　　Ⅲ.住宅型有料老人ホーム小陶里

　　　Ⅳ.住宅型有料老人ホーム咲陶里

**Ⅲ.　総括**

**Ⅰ.　理 念**

**1.基本理念**

**『和敬清寂』**

**2.事業理念**

自宅のくつろぎに医療の機能を。

地域をささえる総合福祉サービスとともに、住み慣れた場所、なじみの顔で自分らしい生活と自分らしい人生を。

**3.沿革**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 年 | 月日 | 歩み |
| 平成25年 | 6月19日 | 社会福祉法人幸雪会　設立 |
| 平成26年 | 7月1日 | 特別養護老人ホーム遊陶里　開設 |
| 平成27年 | 4月1日 | 住宅型有料老人ホーム小陶里　開設 |
| 平成30年 | 4月1日 | 住宅型有料老人ホーム咲陶里　開設 |

**4.事業サービス概要**

|  |  |
| --- | --- |
| 【地域密着型サービス】 |  |
| 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護看護小規模多機能型居宅介護地域密着型通所介護 | 特別養護老人ホーム遊陶里看多機遊陶里癒処陶里夢 |
| 【指定居宅サービス】 |  |
| 短期入所生活介護訪問看護居宅介護支援通所介護訪問介護 | ショートステイ遊陶里訪問看護ステーション遊陶里ケアプランセンター遊陶里デイサービス咲陶里ヘルパーステーション遊陶里 |
| 【その他】 |  |
| 住宅型有料老人ホーム | 住宅型有料老人ホーム小陶里住宅型有料老人ホーム咲陶里 |

**Ⅱ.　令和4年度事業活動報告**

**1.社会福祉法人幸雪会　法人事業報告**

今年度（令和4年度）も、引き続き新型コロナウイルス感染症に翻弄された一年となった。当法人においても令和4年8月に特別養護老人ホーム遊陶里で利用者様7名・職員15名、令和4年12月に住宅型有料老人ホーム咲陶里で利用者様4名・職員2名のクラスターが発生し少なからず影響を受けた。また、前年度より懸案事項である新規事業所の地域密着型通所介護（癒所陶里夢）を令和4年6月に開設することができた。

令和4年度を振り返り法人全体としては前年比103.5％の実績に終わる結果となった。上半期、前半3ヶ月（4月～6月）は前年比92.8％と厳しいスタートとなったが、後半3ヶ月（7月～9月）は前年比106.0％と前半3ヶ月のマイナスをほぼ相殺することができた。下半期は、安定して各月の前年比を上回り107.1％の実績を確保することができた。

令和4年度終盤には新型コロナウイルス感染症も落ち着きを見せ、令和5年2月以降に面会や本格的なレクリエーションの再開を講じ、少しずつではあるがコロナ前の日常を取り戻しつつある。令和5年5月から5類感染症に移行となるが新型コロナウイルスの重症化率や感染力が減弱したわけではないので、今後も感染症対策に取り組み運営推進していく。

**2.法人本部より報告**

**【感染症対策】**

新型コロナウイルス感染症対策を最優先事項として取り組み、前年度、前々年度から引き続いてマスク・フェイスシールドの着用、清掃・消毒の徹底、換気の励行、ソーシャルディスタンスの保持等を基本とし、日々のバイタルの確認や必要に応じての抗原・PCR検査の実施、また緊急時における職員配置のシミュレーションや感染症マニュアル精査等の対策を講じた。実際に令和4年8月・令和4年12月に発生してしまったクラスターの際には、マニュアルに沿って対応し特定の介護職員に若干の罹患者が見られたが、入居者様・利用者様に関してはユニット内の感染に収まり、重症化することもなかった。懸念点としては新型コロナウイルス感染者発生の有事に備え簡易陰圧装置などの機器を導入したが効率よく利用することができなかったことが挙げられる。また、職員の健康状態の把握やメンタルケア等も重要事項ととらえ柔軟な対応に努めたが、詳細について十分な把握ができておらずクラスター発生の要因のひとつであったことが反省点である。

　令和5年度より5類感染症の分類に移行されるが、基本的な対策は引き続き講じ、行政機関の指針や指導のもと対応していく。

**【人材育成と新卒者採用】**

前年度に引き続き職員の育成に重点を置き、今年度は特に外部研修への支援強化を図った。外部研修では、職員の資格取得に向けてのサポートや知識・技能の習得を目的とした研修への参加を推進した。研修に参加して知識・技能を得ることにより個々のスキルアップが期待でき、提供できるサービスの均一化や質の向上に繋がった。また、外部研修で習得した知識・技能を全体会議の場でフィードバックすることにより全職員のスキルアップに繋げることができた。今年度は、実務者研修4名、ユニットリーダー研修3名、認知症実践者研修1名を支援する結果となった。

　新卒者の育成については残念ながら厳しい側面があり、今年度の新卒採用者3名の内2名が退職となってしまった。来年度は、新卒者の教育方針や教育カリキュラムについて検討していかなければならない。令和5年度も高校生新卒者を1名採用することができたので早急に対応する必要がある。

　幹部クラスの人材育成は残念ながら厳しい結果と感じられた。当法人の将来を担う人材の育成は急務であり、令和5年度以降の課題となった。

　評価については、年2回（10月、3月）の自己評価を通じて目標と課題を抽出して個人面談を実施し検証と評価を行った。

**【経費節減】**

今年度は、国際的な原材料価格の上昇や円安の影響を受け物価上昇指数が3.0％と41年ぶりの高水準となった。当法人においても、光熱水費・消耗品・食材費等の価格上昇に伴い経費を圧迫する非常に厳しい一年となった。特に光熱水費については、前年度の140％から150％で推移したため、対策としてLED導入の検討を講じているが令和5年3月現在では導入に至っていない。LED導入に関しては進行形であるが、当法人のメリットとデメリットを見極めて令和5年度以降に判断していく。消耗品の中で価格上昇幅の大きい製品に関しては、各特約店より見積を取り製品の適正価格と特性を勘案し新規採用を行った。また、職員のコスト意識を高め徹底的にムダを排除することに取組んだことにより僅かながらではあるが意識改革ができたと感じられた。

令和5年度以降は建物の経年劣化による補修や機器類の故障等が予測されるため、経費節減についてはあらためて気を引き締め取り組なければならない。

**【年間行事企画】**

|  |  |
| --- | --- |
| **年　月** | **行　事** |
| 令和4年4月 | お花見（桜）、おやつレク（中庭） |
| 令和4年5月 | 端午の節句、母の日、健康診断、消防訓練 |
| 令和4年6月 | 父の日 |
| 令和4年7月 | 七夕、事業所自己点検 |
| 令和4年8月 | 夏祭り、おやつレク（中庭） |
| 令和4年9月 | 敬老会 |
| 令和4年10月 | 秋祭り、ハロウィン祭 |
| 令和4年11月 | 健康診断、消防訓練 |
| 令和4年12月 | クリスマス会 |
| 令和5年1月 | 初詣（エントランス）、獅子舞 |
| 令和5年2月 | 節分、事業所自己点検 |
| 令和5年3月 | 雛祭り、お花見（梅） |

**3.特別養護老人ホーム遊陶里事業報告**

**【運営状況】**

当事業所も開設9年目となり、今年度は多くの入退所が散見される一年となった。入院される入居者様も増加し稼働率は、前年度の97.3％を下回る96.1％にとどまり、実績としては、稼働率の低下に伴い前年を若干下回る結果となった。利用者様の退所に伴う空床を縮小するため、各部門・各事業所及び地域のケアマネージャーや地域包括支援センター等と連携を図り、早期の新規入居者様の受け入れに努め、地域に貢献できる施設づくりを目指した。

**【入居者状況】**

〈定員29名〉令和4年4月～令和5年3月

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 期首在所 | 期中入所 | 期中退所 | 期末在所 | 延稼働日数 | 延在所日数 | 稼働率 |
| 29 | 10 | 10 | 29 | 10,585 | 10,173 | 96.1％ |

〈要介護別構成表〉令和5年3月末現在

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 要介護度 | 男性 | 女性 | 計 | 構成比 |
| 要介護3 | 0 | 4 | 4 | 13.8％ |
| 要介護4 | 5 | 11 | 16 | 55.2％ |
| 要介護5 | 1 | 8 | 9 | 31.0％ |
| 合計 | 6 | 23 | 29 | 100.0％ |
| 要介護平均値 | 4.2 | 4.2 | 4.2 |  |

〈年齢・男女別構成表〉令和5年3月末現在

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 年齢 | 男性 | 女性 | 計 | 構成比 |
| ～74歳 | 1 | 0 | 1 | 3.4％ |
| 75歳～79歳 | 0 | 1 | 1 | 3.4％ |
| 80歳～84歳 | 2 | 2 | 4 | 13.8％ |
| 85歳～89歳 | 0 | 6 | 6 | 20.7％ |
| 90歳～95歳 | 2 | 7 | 9 | 31.0％ |
| 95歳～99歳 | 1 | 7 | 8 | 20.7％ |
| 100歳～ | 0 | 0 | 0 | 0.0％ |
| 合計 | 6 | 23 | 29 |  |
| 男女構成比 | 20.7％ | 79.3％ |  |  |
| 最低 | 74歳 | 76歳 |  |  |
| 最高 | 98歳 | 99歳 |  |  |
| 平均 | 86.0歳 | 91.0歳 | 89.9歳 |  |

**4.看多機遊陶里事業報告**

**【運営状況】**

今年度の実績としては、前年度と比較し僅かではあるが減収となった。逝去や他施設への転出により常時、登録定員数の29名の利用者様を保持できなかった期間があったことが主な要因と考えられる。サービス利用回数は訪問看護・訪問介護については大きな変動はなかったが、宿泊は前述したとおり利用者様の脱落が影響し減少した。通所は年度後半より新型コロナウイルス感染症の対応を緩和したため増加に至った。また今年度も新型コロナウイルス感染症の影響が多々あり地域において果たすべき役割が不十分であったため、来年度の課題事項として検討する。

**【利用者状況】**

〈定員29名〉令和4年4月～令和5年3月

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 訪問看護 | 通所 | 訪問介護 | 宿泊 |
| 982 | 4,933 | 3,919 | 3,251 |

〈要介護別構成表〉令和5年3月末現在

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 要介護度 | 男性 | 女性 | 計 | 構成比 |
| 要介護1 | 1 | 0 | 1 | 3.4％ |
| 要介護2 | 2 | 1 | 3 | 10.3％ |
| 要介護3 | 5 | 4 | 9 | 31.0％ |
| 要介護4 | 4 | 3 | 7 | 24.1％ |
| 要介護5 | 2 | 7 | 9 | 31.0％ |
| 合計 | 14 | 15 | 29 |  |
| 要介護平均値 | 3.3 | 4.1 | 3.8 |  |

〈年齢・男女別構成表〉令和5年3月末日現在

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 年齢 | 男性 | 女性 | 計 | 構成比 |
| ～74歳 | 3 | 1 | 4 | 10.3％ |
| 75歳～79歳 | 1 | 1 | 2 | 6.9％ |
| 80歳～84歳 | 5 | 4 | 9 | 31.0％ |
| 85歳～89歳 | 4 | 4 | 8 | 37.9％ |
| 90歳～ | 1 | 5 | 6 | 20.7％ |
| 合計 | 14 | 15 | 29 |  |
| 男女構成比 | 48.3％ | 51.7％ |  |  |
| 最低 | 64歳 | 65歳 |  |  |
| 最高 | 91歳 | 96歳 |  |  |
| 平均 | 80.5歳 | 85.8歳 | 83.2歳 |  |

**5.ショートステイ遊陶里事業報告**

**【運営状況】**

　今年度は前年度からの課題であった稼働率の改善だが、前半3ヶ月は回復することができず52.3％の稼働率にとどまった。しかしながら令和4年7月以降は、93.5％と回復し一年間を通じては83.3％と前年度の77.7％から5.6ポイント上回る結果となった。令和5年2月・3月にはロングショートステイ利用者様の施設入所等があり、稼働率低下が見込まれるため、早急に新規利用者様の獲得に向け対策を講じなければならない。

　また、算定加算については令和5年度前半にサービス提供体制加算ⅢからⅠへの変更を予定している。

**【利用状況】**

〈定員10名〉令和4年4月～令和5年3月

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 稼働日数 | 延稼働日数 | 延利用日数 | 稼働率 |
| 365 | 3,650 | 3,041 | 83.3％ |

**6.デイサービス咲陶里事業報告**

**【運営状況】**

今年度も、令和4年12月に新型コロナウイルス感染症の罹患が発症しサービスを縮小する期間がありましたが、影響は前年度より少なかった。実績としては前年度を上回る結果で終えることができた。稼働率は前年度72.0％から78.3％と6.3ポイント回復し、概ね毎月平均した実績を残すことができた。

しかし、レクリエーションについては感染予防対策からのアクリルパネルの設置やソーシャルディスタンスの保持などにより、職員や利用者様同士の交流を阻害することとなり来年度の重要な課題事項として考えられる。

**【利用者況】**

〈定員25名〉令和4年4月から令和5年3月

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 稼働日数 | 延利用者数 | 延利用者実人数 | 稼働率 |
| 360 | 9,000 | 7,046 | 78.3％ |

**7.ヘルパーステーション遊陶里事業報告**

**【運営状況】**

前年度は、事業所として新規利用者様の獲得に成功し大幅に実績を伸ばすことができたが、今年度は前年比83.2％の結果に終わってしまった。前年度に獲得した既存の利用者様のサービス中止等が散見され、今年度の新規利用者様の獲得が不十分であったことが要因として考えられる。

また、他事業所にも共通する懸念材料が職員の人員不足であり新規利用者様獲得の機会損失に繋がっている可能性があるため、まずは安定した人員確保を優先し地域に貢献できるように努める。

**8.癒処陶里夢事業報告**

**【運営状況】**

　令和4年6月より新規開設の地域密着型通所介護事業所です。当事業所は定員10名の短時間型（半日型）デイサービスであり開設当初は苦戦を強いられたが、令和5年3月度には稼働率87.2％を達成できた。今後は利用者様の要望や稼働率の推移を勘案し事業の展開を図っていく。

**【利用状況】**

〈定員10名〉令和4年7月から令和5年3月

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 稼働日数 | 延利用者数 | 延利用者実人数 | 稼働率 |
| 192 | 1,920 | 953 | 49.6％ |

**9.その他事業報告**

**Ⅰ.　訪問看護ステーション遊陶里**

今年度の実績は、前年比110.6％の結果に終わったが、前々年の水準には至っていない。ある程度の新規利用者様は確保できたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり既存の利用者様の脱落が影響したと考えられる。また、看護職員の定着が安定しなかったことも要因のひとつとして挙げられる。

**Ⅱ.　ケアプランセンター遊陶里**

今年度の実績は、前年比101.0％で終わりほぼ横ばいの結果となった。前年度と同様に下半期の後半に、登録者の減少があり大きく実績を伸ばすことができなかった。また、外部関係機関と連携強化は一定の成果を得ることができたが、まだ十分とは言えないため今後も注力していく。

**Ⅲ.　住宅型有料老人ホーム小陶里**

前年度に引き続き今年度も高い水準の入居率を維持しているが、入退居は多く散見された。各部門・各事業所及び外部関連機関との連携を図り、早急に対応できる仕組みを引き続き強化する。また、施設内での感染症対策は十分であるとは言えないが結果として評価できるものであった。

**Ⅳ.　住宅型有料老人ホーム咲陶里**

今年度は比較的安定して高い水準の入居率を維持することができたが、下半期に入院・退居が続き3月末日現在2室が空室の状態になっている。来年度に向け早急な対応が必要であり、長期間空室が続けば他事業所への影響も懸念される。感染症対策については、1F部分がデイサービス事業所であり外部からの利用者様と接触も多く、より慎重な対策が必要であったが概ね評価できるものであった。

**Ⅲ.　総括**

法人全体としては、前年比103.5％で終えることができた。上半期の3ヶ月は厳しいスタートとなったが、令和4年7月以降は安定した実績を挙げることができた。今年度の課題としていたショートステイ遊陶里の稼働率改善も、前年を5.6ポイント上回ることができたが、年度末にはロングショートステイ利用者様の他施設等へのサービス変更が散見され、稼働率が低下傾向にあるため来年度も新規利用者様の獲得には注力していく。また、新規事業所として地域密着型通所介護事業所・癒処陶里夢を令和4年6月に開設することができ、年度中にある程度の成果を挙げることができた。法人全体としては、新規事業所を含め連携を密に図り情報共有することが速やかなサービスの変更等に繋がるため、今後も最重点課題として認識しなければならない。

　新型コロナウイルス感染症対策は令和2年度からの懸案事項である。当法人としても行政機関の指針・指導を基本として取り組んできたが令和4年8月・令和4年12月に一部のユニットでクラスターが発生した。しかしながら、罹患した利用者様・職員において重症化に至る者はおらず、また対応についても感染を最小限に抑えることできた。来年度には5類感染症に移行されるが、新たな変異株や新型の感染症の流行が懸念されるので、引き続き対応できる体制の精度を高めることが重要である。

　職員の人材確保ついて中途採用では、定期的に求人広告を掲載するとともに積極的な会社説明会等のイベントへの参加を行い受け入れ態勢を整える。新卒者への対応はハローワークと連携を図り、指定校担当者とのコミュニケーションを密にして採用に繋げていく。また新入職員の教育方針の見直しや既存職員のメンタルケアに配慮し、職員の離職への対策とする。資格取得に向けては、研修への参加を推進し全面的にバックアップできる体制づくりを構築した。

　最後に、新型コロナウイルス感染症の5類感染症への意向に伴い、これまで以上に地域住民や各関係機関と交流を強化し、関係性を深め理解し合い地域社会に貢献できる『施設づくり』をしていく所存である。